

会議結果報告書

1. 会議名 令和5年度 第2回 印西市環境推進市民会議
2. 日時 令和5年6月22日(木) 9:30~11:30
3. 場所 市役所会議棟 204 会議室
4. 出席委員：山崎会長、白川副会長、川井委員、國武委員、小山委員、富川委員、橋本委員、
福井委員、村形委員、渡辺(壽)委員、渡辺(統)委員
事務局：岡本環境保全課長、海老原保全係長、清田主査補
5. 傍聴者 1名
6. 配布資料
 - ・会議次第
 - ・資料 令和5年度印西市環境推進市民会議スケジュール(修正版)
7. 内容
 - (1) 開 会
 - (2) 会長挨拶
 - (3) 議 事
 - ①視察研修について
～事務局説明～

委員：過去の視察先を示していただき、評判が良かったところなどから検討するのはどうか。

会長：今日決めるのは難しいため、次回までに案を出して、検討する形ではどうか。

委員：今日案を出しておかないと間に合わないと考える。過去の視察先は、国立環境研究所、印旛沼関連の施設のほか、千葉県立の博物館で生物多様性センターの職員から話を聞いたこともあった。

委員：ソーラーシェアリングの見学にも行った。

委員：手賀沼の水を江戸川に流す大規模な施設も行ったと記憶する。

委員：他の団体で、印旛沼・手賀沼の歴史、現状を学ぶ機会があったが、非常に関心があった。

委員：印西市はどういう所かをしっかり見た方が良いのではないかと考える。例えば、白鳥が来る田んぼや台地が開発されている状況、農業が衰退した耕作放棄田が増えた谷津などの「いんざいぐるっとめぐり」のようなものを提案したい。全員が目でしっかり印西を見てまわることが必要であり、私たちが今考えている3つの大作戦にどのようにつながるかを整理して視察先を検討した方が良いと考える。

委員：昨年度ホテルに関して提案した3か所のうち1か所の八千代市に行ったが、昨年度行けなかった他の2か所を提案したい。1つは、船橋の高校の敷地内にある芝山湿地で、コンパクトな敷地の中で、ホテルがどういう環境で育つかが一目でわかる場所である。2つ目は、船橋市の運動公園で、飼育所等の施設を作りホテルを飼育しており、多額の投資をして作った人工的なホテルの飼育環境である。

委員：それぞれ関心のある分野が異なるため、別々に行動するという方法は考えられないか。

事務局：公用車で移動ということは可能かもしれないが、委員の自家用車による移動は難しい

と考える。

委員：昨年度は流れてしまったが、データセンターの見学を提案したい。印西市がゼロカーボンシティ宣言できていない理由がデータセンターから始まっており、使用電力量が多いということであるため、データセンターでこういった取組をしているか、廃熱をどう活用しているかなどを知りたい。

委員：市議会議員がデータセンターを見学した事例などはあるのか。

事務局：データセンターの建物自体は民間施設であり市として視察した事例はないが、東京電力の施設を視察した事例はある。

委員：それは供給側の話であるため、電力を使っている側がどうするかはわからない。

委員：印西市として話が聞きたいということでは、絶対無理とは言えないのではないか。施設を全て見学したいということではなく、会議室等で話を聞くだけでも良い。

委員：個々の会社は無理でも、まとめている会社に話を聞くなどはできないか。

委員：建物の中は見ても参考にならないと考えるが、印西市の地下に掘っているトンネルや建設される変電所の私たちの暮らしへの影響、また、様々な建物が建っているが、それらの環境への影響などについては、非常に興味を持っている。

委員：先ほど提案のあった印西の環境を見て回るというのは良い考えであると感じた。成功例は他の自治体に様々あると思うが、印西に迫る危機というものを実際に私たちの目で見るということは重要であると考え。また、それぞれの興味がある分野について分散して視察し、後日全体で共有するというのも一つであると思う。

委員：データセンターについては、廃熱をどうしているのか施設を見てみたい。冷却水として地中に逃がしているのか、クーリングタワー、ヒートポンプなど、どの設備を使っているのか、廃熱エネルギーは物凄い量であるため、地中に逃がせば地下水の温度は上がると考えられる。大和ハウス工業の敷地は膨大で、ホテルの生息する環境などに影響はないのかなど、データセンターが建設される現場に行って話を聞きたい。

委員：廃熱の件は、外国では地域の床暖房や温水に活用されている事例があるため、ゼロカーボンなどを考えてく上で、もし廃熱が無駄になっていることがあるのであれば、悪影響だけを考えるのではなく、有効活用することも考え、実際にどうなっているのかを見て、これからプラスの方向での計画はないのかということを知りたいと思う。

委員：廃熱で温室を作って作物を育てるなどの提案にもつながることから、直接話が聞けたら良いと考える。

委員：今までの話から、印西市の環境を見るということは、里山や自然環境だけでなく、これから建設されるデータセンターの実態を見るということも考えられるため、印西の環境を見るということの一環で、どこか一か所だけでも話を聞くというやり方も良いのではないか。

会長：データセンターに関する関心は皆さん高いようである。最初に説明のあったどんぐりの森のほか、印西の環境を見て回る、ホテル、印旛沼・手賀沼、などの案が出ている。次回までにどの形が良いかご検討いただければと思う。

事務局：東京電力の工事に関しては、昨年度は、地下を歩いてみて回らなければならないということで難しいのではないかという話であった。データセンターについては、何件か

問い合わせたところ難しいという話であった。

委員：今年度は違った対応になる可能性がある。

委員：データセンターについては皆さん関心が高いため、再度交渉してほしい。

会長：次回までに、こういった形であれば可能か提案いただけるか。

事務局：データセンターについては、相手方に確認をさせていただいた上でお答えしたい。

委員：エネルギー使用について、監査するといった意味合いを強く出すのではなく、印西市議会であれば建設経済常任委員会による建築物の視察という観点でお願いすれば受けただけの可能性が高まるのではないかと考える。

委員：東京電力のトンネル工事など施設を見るだけでは意味がないと考える。

事務局：市からの提案といった形ではなく、あくまで知見を高めるといった目的のもと、今ある施設の見学という形をお願いするにとどまると考える。

委員：視察先の決め方としては、いくつか案が出た中で、第1希望、第2希望と投票して決めるのはどうか。

会長：これまで出た意見としては、どんぐりの森、データセンター、印西市を見て回る、ホテルに関する視察、印旛沼・手賀沼に関する視察が挙げられるため、次回このの中から決めることとしたい。

委員：印西ぶらり歩きの中にデータセンターと印旛沼・手賀沼に関するものも含めてはどうか。

委員：午前1か所、午後1か所で時間的にはいっぱいではないかと考える。

会長：印西市を見て回るというのは範囲が広いと感じるがどうか。

委員：時間に合わせて、何をみたいかで選ぶ必要がある。個人的には、里山の荒廃とデータセンターの実態を希望する。市内の谷津がどれほど失われているかを見たいと思う。手賀沼・印旛沼なども含めると時間的には厳しい印象である。

委員：水に関することでは、中央公民館の施設も考えられる。

会長：承知した。視察研修については以上とする。

②環境基本計画の推進に係る市民会議の取組について

～事務局説明～

委員：環境カレンダーに関して、市と業者の協働発行という話があったが、カレンダーは誰の著作物になるのか。

事務局：確認を取る必要はあるが、カレンダー自体の校正やデータ提供は市が行うことから、カレンダーの中身についての著作権は市に帰属するものとする。

委員：デザインの内容については市でリーダーシップが取れるということで承知した。作成スケジュールを考慮すると、実現できるのかということに危惧している。また、広告が大半を占める形は、これまでの案のイメージとは大きく異なるという点も含め、実現可能性について、改めて皆さんの意見を伺いたい。

会長：先ほど事務局から提案のあった、サステナブルグループとカーボンニュートラルグループを一体とする案についてはどうか。

委員：カーボンニュートラルグループは、テーマが異なってしまうがその形で良いのか。

- 会長：地球温暖化対策は様々な問題に関わってくるため問題ないと考える。また、人数のバランスも考え、サステナブルと一緒に検討させていただければ、何かしら力になれると考えている。
- 委員：カレンダーについては、この量の広告を毎月載せないと作れないという認識で良いのか。
- 委員：この形での作成については抵抗感がある。
- 委員：私も同意見である。この形ではやめた方が良いと考える。広告のスペースが半分を占め、環境に関する各文言を入れるスペースがかなり小さくなってしまう。
- 委員：広告のデザインの見栄えが良くないため、折衷案として、レイアウトを調整してもらうなどは必要と考える。経済振興課でまっぷるを作る予算はあるのに、環境カレンダーを作る予算がないのは残念である。
- 委員：広告スペースを小さくして、レイアウトを変更することはできないか。
- 事務局：広告収入で作成するため、広告に関してこちらからお願いするのは難しい。
- 委員：例えば、紙の厚さを変えたり、A4をB5にするなど、仕様を調整して経費を削減することはできないか。
- 委員：広告を取りやすい形で作成するため、業者の示す形になっていると考える。
- 会長：広告のデザインについてと記事の作成期限についての2つの問題が生じている。
- 委員：4月はじまりにすることでスケジュールを調整できないか。
- 会長：4月はじまりにすれば、広告の掲載方法を検討する時間ができるか。
- 委員：広告入りでは作らない方が良いとするか、来年度予算を取ってきちんとしたものを作るか、折衷案として広告のスペースを調整してこの形で作るか、の3パターンで考えるしかないのではないか。
- 委員：いずれにしても現在のスケジュールでは厳しいため、来年度にまわすとすれば、業者さんともしっかりと調整ができたり、作成の予算がつくかもしれない。
- 委員：1年遅らせれば予算がつく可能性があるのか。
- 事務局：予算については確約できない。環境を扱う部署であるため、紙で印刷をするのではなく、ホームページに掲載するなどデータでの配信という方法を取れないかという意見も出ている。
- 会長：確かにデータを載せている自治体はある。データを掲載する方法を取れば、この問題が解決するように感じる。
- 委員：予算がつく前提で話が進んできたと認識しており、そうでないということであれば、カレンダーの作成はやめた方が良いと考える。
- 委員：以前団体でカレンダーを作成した際は、デザインを全て作成した上でPDFデータを提供し、業者に印刷のみ行ってもらうことで、経費を安く抑えることができた。そういう形で進めることはできないか。
- 委員：カレンダーを作ることが目的ではなく、環境に関する啓発をすることが目的であるため、広告がメインとなっているこの形での作成はやめた方が良い。
- 委員：昨年度の会議の中で、事務局から、ホームページ等でデータを掲載するという提案があれば、毎月広報いんざいにホームページアドレスを掲載し、各自ホームページから

カレンダーをダウンロードできる形とするなど、方法はあったと考える。

委員：今後話し合ったり、考えたりしながら、作成を先延ばしするのが良いのではないか。

委員：データ掲載という形を取れば、簡単にできるのではないかと思う。ひと月分だけ掲載するといった方法もある。

委員：PDFデータを提供する形で印刷する場合には、どれくらいでできるのか。

委員：一般的には、4000部で25万円程度、3000部から安くなるようである。

事務局：印刷製本費を捻出することが可能かどうかについては調べさせていただきたい。

委員：広告ではない形で作成することができる可能性も出てきているようだが、紙で印刷されていること自体が問題視されているということであれば、データで掲載する形が望ましいか。

委員：カレンダーでなくとも、こういった会議資料など、市で使用する紙の量を減らすことは可能である。

委員：市民としては、紙のカレンダーが欲しい。

委員：データ版については、SNSで発信するといった方法もある。

委員：殺風景な印西市のホームページに綺麗な写真が載ったカレンダーが掲載されると良いと思う。

委員：ネット印刷であれば、注文してから20日程度で納品されるようである。今回の作成スケジュールについては、広告の業者選定に時間がかかるという話であり、市で印刷費を捻出できるということであれば、10月11月くらいまでデザインの調整に時間をかけられるのではないかと思う。

会長：方向性としては、PDFデータを作成し印刷だけするという方法を検討し、広告入りのものはなしという形で良いか。

事務局：承知した。印刷製本の予算と部数については、検討させていただきたい。

会長：カレンダーの内容の件についてはどうか。

委員：今後集まれる日が限られているため、写真イメージとテーマをこれまで議論してきた内容をもとにまとめてお配りした。ただし、広告入りの作成という案がなくなったため、改めて考えなおすことが可能と考える。

委員：カレンダーに関する話で時間を取られ、グループごとに検討する時間がなくなってしまったため、2時間という限られた時間の中での進め方を検討する必要がある。

委員：カレンダーの話をどういった位置づけにするのかという点について、サステナブルグループで話を詰めていただいた上で、このような形で良いかという案を全体に示していただき、良いかどうかを判断させていただくという形をお願いしたい。

(5) その他

委員：環境フェスタは中止となってしまったが、予定していたクイズの回答を見直していた中で、ネオニコチノイド系の農薬は使わないようにしましょうという箇所があり、市民に対しては伝わりにくいと感じたため、今回は変えた方が良いと感じた。

委員：具体的な製品名を挙げるとわかりやすいが、問題になるため、そのような表現となってしまう。なるべく、農薬は使わないようにしましょうとか、農薬の分量を守り

ましようとか、そういった表現にするしかない。

委員：6月1日から新たに特定外来生物としてアメリカザリガニ、アカミミガメの規制が始まった件について、県民だよりには掲載されていたが、市の広報には載っていなかったため、掲載した方が良いと考える。

委員：ひょうたん池でザリガニ釣りのイベントをまだ行っているようであれば、特定外来生物となった以上は、子どもが喜ぶからといってやっていいものではないと考えている。環境を守るため、そういったイベントをする場合には、キャッチ&リリースを良しとするのではなく、持ち帰り最後まで飼うといったことをお願いする形としていただきたい。

～事務局説明～

- ・手賀沼流域協働調査について
- ・次回会議の開催予定について
- ・報償の振込について

(6) 閉 会

以上

令和5年度第2回印西市環境推進市民会議の会議録は、事実と相違ないことを承認する。

令和5年7月28日

印西市環境推進市民会議 委員 小山 尚子

印西市環境推進市民会議 委員 白川 卓生